

## ジョクジャカルタ・王宮の広場での日食観測

仙台市天文台 小石川 正 弘

大部前のことになるが、国立科学博物館の村山先生を尋ねた折「天文ガイドで日食ツアーの計画があるので小石川君も参加してみない」と言うのです。小山先生も「ねえ、行きましょよ」と言うのです。自称・惑星屋?の私には、日食観測など無縁なものと思っていましたが、お話を聞きますと、今回のインドネシア日食はすばらしい条件のようです。仕事上一見の価値はあるだろうと考え我が家の大蔵大臣に伺いをたてたら、以外に簡単に予算要求案は許可されたのです。それからが大変で、観測機材の準備、資料集取、テスト撮影等にあわただしい日々を送りました。なにしろ皆既日食は、プラネタリウムの補助投映器位でしか見たことがなかったものですから。

さて、天文ガイドCグループ総勢32名は、6月6日成田から機上の人となりました。32名の中で皆既日食を経験された方は、大変少なかったようです。でも、白河天体観測所の日食観測のベテラン、藤井 旭氏、富岡啓行氏も入っており、私も皆さんも安心してたようです。

私達の観測場所となった、ジョクジャカルタ市内の王宮の広場は、我々の宿所・アイルランガゲストハウス（高級民宿みたいな所）より徒歩で10分位の所です。サッカー場が楽に二面は取れ地面は芝になっています。絶好の観測場所です。広場中央には、カジュマロの大木があり、その下に本部を設営しました。日食前日には、政府の命令によるものか広場全体の大消毒もありました。日食当日、前日の悪天候とはうって変り大変良い天気です。皆さんの顔にも活気がみなぎっています。朝食もそこそこに観測機材をバスに積み込んで王宮の広場へ、広場では、東西方向に人員を配置しました。ナトラブ旅行社の人達が市民が入れないようにロープを張ってくれました。トラックに乗った1個小隊の軍隊、警察、広場の警備員、救急隊等インドネシア政府の日食に対する意気込みが感じられ、我々は大変おどろきました。

第一接触の頃から薄い雲が出始め太陽に接近してきます。観測計画を多少変更せねばなりません。食の進行と共にあたりが異様な感じの暗さとなってきました。第二接触のちょっと前、西側方向を見たら何かしら真黒いかたまりみたいなものが近づいて来るのです。これが本影錐なのでしょうか。きれいなダイヤモンドリングです。この頃からコロナが見えるとの換声が出ています。薄雲のきれ間から大変見事なコロナが見えています。私も夢中でシャッターを切り続けました。残り2分30秒!、藤井さんからの大号令がかかりました。えっ、あと半分しかないのか。同僚の竹沢先生より7×50の双眼鏡を借用して眼視観測を楽しむ。すごい、コロナはこんなにきれいなものか。今までにいろいろな観測をしてきましたが、こんなに興奮したのは初めてです。30秒位はながめたでしょうか。第三接触が近いのでカメラを取り替えてシ

ャッターを切りました。その後は、薄雲にはばまれながらも私にとって記念すべき初体験の皆既日食観測を終えたのです。今回の王宮の広場での観測は、100%好条件ではありませんでした。ベテランの人達は引分け、我々は90%の成功であったと思います。帰国後、スライドを見返してみるといろいろと反省点があります。次回は、それら反省点を改善して行きたいと考えています。そして、大自然が与えてくれた最大の天体現象をこれからも求め続けたいと思います。